

# 骨スキャンと転移性骨疾患

伊 藤 和 夫\*

\*札幌鉄道病院放射線科

要旨 骨スキャンは全身検索が容易で、骨病変の検出に優れており、悪性疾患の骨転移の診断に最も広く利用されている。しかし、CTやMRIなどの解剖学的検査と比較して病変特異性に乏しく、また、厳しい医療経済の観点から、骨スキャンのより効率的利用が求められている。骨スキャンが今後も転移性骨疾患のスクリーニング検査として利用されるためには、検出感度をより高める検査方法の工夫、および病変特異性の高い放射性医薬品の開発が課題と思われる。

(核医学 37: 1-5, 2000)